

米国による「臨界前核実験」実施に断固抗議する！（声明）

米国・オバマ大統領は、政権下で初となる臨界前核実験を9月15日午後5時35分に実施していたことが12日、明らかになった。今回で24回目となる米国の臨界前核実験は『バッカス』と名づけられ、原爆を開発したロスアラモス研究所がネバダ州の地下核実験場の地下約300メートルで実施。米・エネルギー省国家核安全保障局(NNSA)によると、「核兵器の安全性と有効性の維持が目的」で「核爆発はおこらなかった」という。しかし、どこの国でいかなる理由があろうとも、核実験をおこなうことは断じて許されない。

米国の核兵器は、被爆地・ヒロシマとナガサキで数十万人もの命を一瞬にして奪い、いまなお人々が苦しみ続けていることを、オバマ大統領は何と考えるのか。昨年4月、米国が核兵器を使用した唯一の国として「核兵器のない世界」に向けてCTBT(包括的核実験禁止条約)発効や核保有国の軍縮推進などの包括的な構想を表明し、各国への呼びかけを表明したあのオバマ大統領の『プラハ演説』は虚言だったのか。あるいは昨年、オバマ大統領が「核兵器なき世界の実現を掲げ、対話と交渉を通じた国際紛争の解決を目指し、世界に将来の希望を与えた」などと「評価」され受賞した『ノーベル平和賞』は何だったのか。これら全ては米国とオバマ大統領の偽言・偽善ではないか。世界から直ちに抗議の声があがっていることに、何と答えるというのか。

今回の臨界前核実験に加え、来年9月までにあと2回の核実験も準備しているという米国は、核開発と核保有による「核抑止力」を堅持しつづける明確な核政策を表明したといえる。このことは各国の核廃絶に逆行し、核兵器開発競争をあおることとなる。断じて許されない。直ちにいっさいの核実験・開発計画を中止すべきである。

JR総連は、今回の米国の臨界前核実験実施と、明らかとなった米国・オバマ大統領の核兵器開発と核軍縮に対する欺瞞に、満腔の怒りをもって抗議する。同時に、核兵器の廃絶を全世界に訴え、平和な社会を希求し、闘い続けることを表明する。

2010年10月15日

全日本鉄道労働組合総連合会（JR総連）